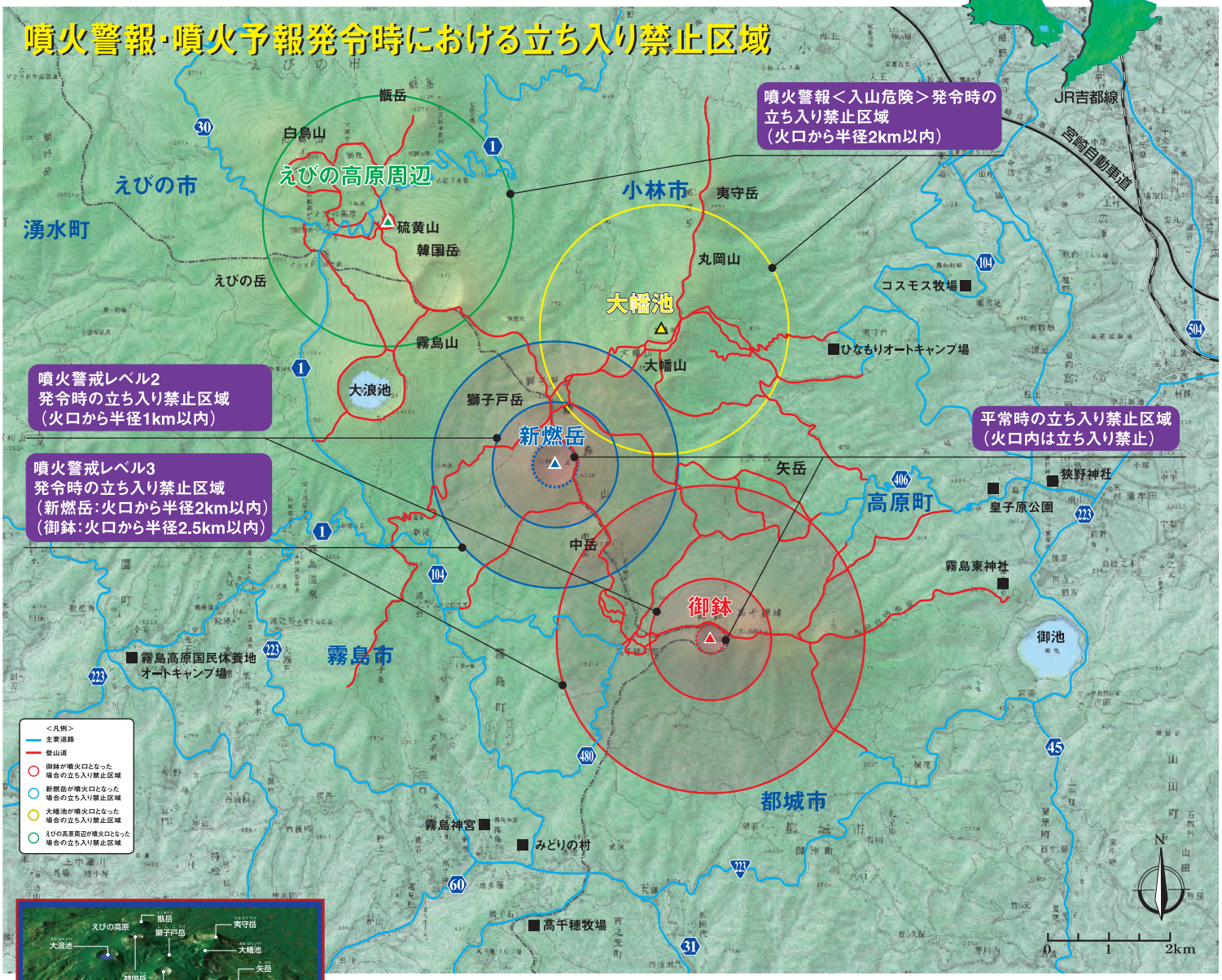
霧島火山防災マップ

このマップは、今後噴火口となる可能性の高い4箇所（「新燃岳」「御鉢」「えびの高原周辺」「大幡池」）において、火山活動が活発になった場合の立ち入り禁止区域の範囲を示したものです。噴火警報・噴火予報の発表に応じて、登山道の入口などから通行規制がかかる場合がありますので、立ち入り禁止区域・通行規制区域内には絶対に入らないで下さい。

噴火警報・噴火予報発令時における立ち入り禁止区域



霧島山周辺に点在する噴火の歴史

霧島山は、比較的小規模な火山が集まってできた火山群です。現在見られる火山のほとんどは、約30万年前に加久藤カルデラで発生した大規模火砕流（加久藤火砕流）の後に形成されたものです。霧島山は、たくさんの噴火活動が歴史記録に残されている、日本でも活動的な火山のひとつです。

御池

御池は、4200年前の爆発的な噴火によって作られた、霧島火山では最大・最深の火口湖です。その噴火による軽石は、都城市街地でも1mくらいの厚さで堆積しています。御池の噴火は、知られている霧島火山の爆発的噴火の中では、最も規模の大きいものでした。

高千穂峰

秀麗な姿を見せる高千穂峰は、複雑な形成史を持つ複成火山です。尖った山頂部は溶岩ドームでできています。後にその西側で活動を始めた御鉢火山の噴火の影響のため、山頂部から西側斜面にかけては植生のない裸地となっています。

炭化木

新燃岳の1716～1717年の噴火による火砕流にのみ込まれて立木のまま炭になった木です。周辺には、ひとかかえ以上もある大きな炭化木がたくさん見られ、この噴火の前には、ここに豊かな森が広がっていたことがわかります。

硫黄山

江戸時代の1768年にできたと考えられている硫黄山は、霧島火山の中では最も若い火山体です。山体の周辺には、大きな火山弾がいくつも見られます。その浅い火口の中には、昭和30年代頃まで稼動していた、硫黄採掘のための煙道跡が残っています。

栗野岳

栗野岳は、現在見られる霧島火山の中では、比較的古い時代に活動した火山です。火山体は浸食が進み、明瞭な火口跡も見られませんが、その中腹には八幡地獄と呼ばれる噴気地帯があり、現在も盛んに噴気を上げています。

韓国岳

霧島火山の最高峰韓国岳は、約15000年前の噴火によって形成されました。その時の軽石は遠く宮崎市内でも観察することができます。韓国岳の形成後、南東側と北西側で爆発が起こり、その山体の一部が壊されました。このときの南東側の火口跡が毛色池です。

桐原の滝

桐原の滝は、霧島火山の北西側にある加久藤カルデラから約30万年前に噴出した大規模火砕流堆積物にかかる滝です。堅く溶結した凝灰岩が川の浸食に抗して段差ができたもので、この下流にある関ノ尾滝や縄穴群も同じ溶結凝灰岩でできています。

歴史時代の主な噴火活動

噴火年	噴火地点	噴火現象	災害状況
788年	御鉢	溶岩流、火砕流	
1235年	御鉢	噴石、火砕流、溶岩流	
1566年	御鉢	噴石	死者多数
1716−1717年	新燃岳	噴石、火砕流、火山泥流	死傷者60名以上 寺社、家屋焼失
1768年	硫黄山	溶岩流	
1895−1900年	御鉢	噴石	死者7名
1923年	御鉢	噴石	死者1名
1959年	新燃岳	火山灰、水蒸気爆発	
1991年	新燃岳	火山灰	
2008年	新燃岳	火山灰	

噴火警報・噴火予報とは

噴火警戒レベル導入火山＜新燃岳・御鉢＞では、5段階のレベル（キーワード）で、噴火警戒レベル未導入火山＜えびの高原周辺・大幡池＞では、4種類のキーワードで、気象庁より噴火警報・予報として発表されます。

予報・警報の名称	予報・警報の略称	新燃岳・御鉢の場合	えびの高原周辺・大幡池の場合
噴火警報	噴火警報	レベル5 避難	居住地域厳重警戒
		レベル4 避難準備	
	火口周辺警報	レベル3 入山規制	入山危険
		レベル2 火口周辺規制	火口周辺危険
噴火予報	噴火予報	レベル1 平常	平　常

火山活動が活発化し、避難が必要な場合は、各自治体より避難情報の伝達がなされます。指定された避難所へ避難してください。

環霧島会議（都城市、高原町、小林市、えびの市、湧水町、霧島市、曽於市）は、霧島火山防災対策をすすめ、安全・安心な地域づくりを推進するとともに、霧島ジオパーク推進連絡協議会を設立し、世界ジオパーク認定を目指しています。